

8月の農作物病虫害発生現況

(令和8年8月 12 日現在)

山口県病虫害防除所

1 巡回調査期間:8月5～7日

2 1か月気象予報(8月6日福岡管区気象台発表)

気温:低い 10%、平年並 30%、高い 60%

降水量:少ない 40%、平年並 30%、多い 30%

日照時間:少ない 40%、平年並 30%、多い 30%

3 発生現況

【イネ】

○いもち病(穂いもち)

発生現況(穂いもち:16 ほ場): 少

初発生:8月6日(平年8月8日)柳井市

ほ場調査:少 発生ほ場率 0%(平年 5.9%)、発病株率 0%(平年 1.1%)、発病穂率 0%(平年 0.1%)、被害度 0(平年 0.0)

発生現況(葉いもち:82 ほ場):平年並

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 19.5%(平年 22.8%)、発病株率 4.1%(平年 9.1%)、発病度 1.0(平年 2.4)、病斑の最上位葉 2.6 葉(平年 2.4 葉)

今後の予想:少

予想の根拠: 現況発生量(－)、現況葉いもち発生量(±)、降水量はほぼ平年並、気温は高い(－)

備考:上位葉に葉いもちが発生しているほ場は、直ちに防除を行う。穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の2回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。

○紋枯病

発生現況:少

ほ場調査:少 発生ほ場率 1.2%(平年 10.6%)、発病株率 0.1%(平年 1.2%)、発病度 0.0(平年 0.3)

今後の予想:少

予想の根拠:現況発生量(－)、気温は高い(+)

備考:穂ばらみ中期(出穂前 14 日頃)の発病株率が 15～20%以上の場合に防除を行う。

○ごま葉枯病

発生現況:多

ほ場調査:多 発生ほ場率 32.9%(平年 16.6%)、発病株率 13.1%(平年 5.4%)、発病度 3.3(平年 1.4)

今後の予想:多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い(+)

備考:穂いもちとの同時防除を行い、穂枯れが発生しないようにする。

○ツマグロヨコバイ

発生現況:少

ほ場調査:少 発生ほ場率 7.3%(平成 21.7%)、虫数 0.0 頭/10 株(平成 0.5 頭/10 株)、

○セジロウンカ

発生現況:やや少

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 9.8%(平成 39.2%)、0.5 頭/10 株(平成 21.1 頭/10 株)、
県内3か所の予察灯誘殺数(7月5日～8月4日):多 589 頭(平成 109 頭)

今後の予想:やや少

予想の根拠:現況発生量(一)、気温は高い(+)

備考:中生品種や飼料用米で防除の目安を超えるほ場(穂ばらみ中期までに株当たり 50 頭以上(成幼虫)のほ場)は褐変穂を生じる可能性があるため薬剤防除を行う。出穂した後のほ場では、防除の必要性は低い。

○トビイロウンカ

発生現況:平成並

ほ場調査:平成並 発生ほ場率 2.4%(平成 11.7%)、0.0 頭/10 株(平成 2.9 頭/10 株)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月5日～8月4日):多 19 頭(平成 2.5 頭)

今後の予想:平成並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考:防除の目安は、8月中旬以降は株当たり成幼虫5頭以上である。

令和8年7月 13 日付け令和8年度農作物病虫害発生予察注意報第3号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/245575.pdf>

令和8年8月4日付け令和8年度農作物病虫害発生予察技術資料第4号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/247154.pdf>

○コブノメイガ

発生現況:平成並

ほ場調査:平成並 発生ほ場率 54.9%(平成 30.5%)、被害葉率 0.3%(平成 0.6%)、20 回払い出し虫数 0.8 頭(平成 0.8 頭)

今後の予想:平成並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考:飛来日から予測される防除適期は8月 29 日～31 日頃であり、出穂の遅いほ場では特に注意する。また、葉色の濃いイネでは被害を受けやすい。

○斑点米カメムシ類

発生現況:平成並

出穂ほ場におけるすくい取り調査(32 ほ場):平成並 20 回当たり虫数 2.3 頭(平成 3.8 頭)、
主なカメムシ類;ホソハリカメムシ 0.4 頭(平成 0.4 頭:平成並)、クモヘリカメムシ 0.3 頭(平成 0.5 頭:平成並)、イネカメムシ 0.3 頭(平成 1.3 頭:やや少)、シラホシカメムシ・トゲシラホシカメムシ 0.8 頭(平成 0.3 頭:やや多)、アカスジカスミカメ 0.3 頭(平成 0.9 頭:やや少)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月1日～7月31日):やや多 3,035 頭(平年 2,624 頭)、内訳はクモヘリカメムシ 58 頭(平年 53 頭:平年並)、アカスジカスミカメ 2,678 頭(平年 2,145 頭:やや多)、アカヒゲホソミドリカスミカメ 80 頭(平年 303 頭:やや少)、ミナミアオカメムシ 53 頭(平年 51 頭:平年並)、イネカメムシ 166 頭(平年 73 頭:やや多)。

今後の予想:平年並

予想の根拠:本田発生量(±)、予察灯誘殺数(+)、気温は高い(+)

備考:穂揃期と穂揃期7日後の2回防除を徹底する。イネカメムシの発生が多いほ場では、防除適期である出穂期に遅れないよう、出穂期と出穂期7日後の薬剤防除を実施する。防除後もほ場での発生状況を確認し、カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。

粒剤で防除を行う場合は、液剤より1週間程度早く散布する。粒剤はイネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、これらが多い場合は粉剤、液剤の使用が望ましい。

【大豆】

○吸実性カメムシ類

発生現況:平年並

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 26.3%(平年 43.8%)、0.2 頭/m²(平年 0.3 頭/m²)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月1日～7月31日):平年並 86 頭(平年 90 頭)、内訳はイチモンジカメムシ 26 頭(平年 9 頭:多)、アオクサカメムシ 7 頭(平年 44 頭:やや少)、ミナミアオカメムシ 53 頭(平年 51 頭:平年並)。

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考:子実肥大期(開花期後 45～50 日)の防除を実施する。散布後にもカメムシ類が発生する場合は、追加防除(開花期後 60 日頃)を実施する。

○ハスモンヨトウ

発生現況:平年並

ほ場調査:少 発生ほ場率 0%(平年 12.6%)、1a 当たり白変か所数 0 か所(平年 0.2 か所)

県内5か所フェロモントラップ誘殺数(7月1日～7月31日):多 4,379 頭(平年 2,495 頭)

今後の予想:平年並

予想の根拠:ほ場発生量(－)、フェロモントラップ誘殺数(+)、気温は高い(+)

備考:防除の目安は、白変葉の発生か所数が 1a 当たり5か所以上。中～老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

○ウワバ類等のチョウ目

発生現況:平年並

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 52.6%(平年 72.4%)、0.6 頭/m²(平年 0.9 頭/m²)

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考:発生の主体はウワバ類。ほ場をよく確認し、発生が多い場合は防除を行う。

【果樹全般】

○カメムシ類(クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)

発生現況:やや多

県内4か所の予察灯誘殺数(7月1日～7月31日):やや多 1,295 頭(平年 496 頭)

県内4か所のフェロモントラップ誘殺数(7月6日～8月5日):やや多 21,483 頭(平年 7,848 頭)

今後の予想:やや多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い(+)

令和8年4月30日付け令和8年度農作物病虫害発生予察注意報第1号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/239439.pdf>